



●みちのく EMS の代表交代のお知らせ

みちのく環境管理規格(みちのく EMS) 認証機構の代表が機構立ち上げ当初から代表を務めていただきました奥脇昭嗣先生より、本会の顧問でもある中田俊彦先生(東北大学大学院工学研究科教授)に交代いたしました。

●優良産廃処理業者認定制度における「環境配慮の取組」について

みちのく EMS はエコアクション 21 と産業廃棄物処理業者の相互認証に関わる制度間確認を行っているため、優良産廃処理業者認定制度の基準の 1 つ「環境配慮の取組」として認められております。ただし、「産業廃棄物処理業者相互認証に関する規程」に基づき、エコアクション 21 との個別確認を行う必要がありますので、優良産廃処理業者認定制度に申請する際は、お早めにみちのく EMS 事務局までご相談下さい。



今後の不動産動向

環境会議所東北の会員の皆様に於かれまは益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。弊社は建物(資産)の管理(価値の維持)を目的に 1000 棟以上の建物に関わらせて頂いております。

今回は最近の不動産動向について、お話をさせて頂きませぬ。

東日本大震災以降、被災者や復旧・復興支援者の受入れで、入居率も高く推移してきましたが、復興も進むにつれ入居率は少しずつ下降傾向にあります。しかしながら震災前よりは入居率は高いので、投資目的で既存不動産を取得する方が多い。特に建設関連の会社が積極的に利回りの良い物件を取得しています。

●グリーン購入事業所見学会の開催

大崎市の有限会社千田清掃のバイオディーゼル燃料製造施設と加護坊温泉さくらの湯の大崎市太陽光発電・木質ボイラー複合利用施設および隣接するさくらソーラーパークの見学会を開催いたします。

- 日時：平成 27 年 7 月 2 日(火)
- 集合・解散：仙台駅前東口観光バスターミナル
- 主催：みやぎグリーン購入ネットワーク
- 共催：宮城県
- 内容：
 - ①有限会社千田清掃(第 16 回グリーン購入大賞 審査委員会特別賞受賞)
 - ②昼食 大崎市食の蔵 醸室(かむろ)
 - ③講演・見学
 - 加護坊温泉さくらの湯・さくらソーラーパーク
 - (1)大崎市太陽光発電・木質ボイラー複合利用施設について
 - (2)大崎の環境保全・渡り鳥について
 - (3)さくらソーラーパークについて



新入会員をご紹介します。(敬称略)2015.7 月現在 会員数 61

●旭興業株式会社 <http://www.asahi-kogyo.jp>

●みちのく EMS 説明会・セミナー情報

■会場：NPO 法人環境会議所東北

●無料説明会 参加費無料

(毎月第 3 水曜日 10:00~11:30)
7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16
システム導入にあたり、何から始めてどうすればいいのか? 構築から認証登録までを分かり易く解説いたします。

●内部監査員養成研修 費用 ¥10,800/1 人

(毎月第 3 水曜日 13:00~17:00)
7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16

●省エネセミナー 費用 ¥3,780/1 人

(毎月第 3 木曜日 15:00~17:00)
7/16、8/20、9/17、10/22、11/19、12/17

※有料のセミナーの定員は 12 名(先着順)

※お申込はホームページをご参照ください。

URL: <http://www.kk-tohoku.or.jp/ems/>

NPO 法人環境会議所東北 理事
株式会社ティ・ピー・エスサービス常務取締役
(ビル経営管理士) **藤巻 紀夫**

今後は復興住宅の整備や人口減少が進み、入居率は現状維持か益々下がる二極化が進むと思われます。1) 立地・交通の便の良い中心地、駅の近郊、平坦な場所 2) 不動産の質・防犯・防災対策、EV 等の設備 3) 管理サービス・快適、リスクマネジメント がキーワードと思われます。

今後も運営管理のプロとして 1) 環境性能 2) 快適性 3) 防犯防災対策 4) 周辺環境・地域社会への配慮 5) 所有者・テナントの省エネ連携、BCP 対策 を中心に事業を推進いたします。

編集後記 環境の表現は「エコ」で通じ、他にエコロジカル・エシカル・ロハス等々じつに環境にかかわる言葉が多くあります。老若男女にかかわらずあらゆる分野の人々が関心を向けるようになりました。しかしどんなに普及拡大し科学が進歩しようと今だに自然現象や自然の猛威に人間は立ちはだかることが出来ません。最近の気候変動は突然の突風により瞬時に屋根が飛ばされ、大粒の雹が降りビニールハウスや野菜への影響、バケツを逆さにしたような雨が降る。この状況になすすも無い私たちがいます。地球環境の変化や原因が解明されつつある今、人間中心の考え方から(共存・共栄・共生・共創)ともに生きること、一人一人が自然と向き合い自然の循環の理を学び実践することこそが持続可能な社会にする鍵と感じます。

発行・編集 NPO 法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目 10-6

TEL. 022-218-0761 FAX. 022-375-7797

Email: kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp

ホームページ:

<http://www.kk-tohoku.or.jp> (環境会議所東北)

<http://asu-net.info/> (アスネットみやぎ)

※Facebook もございますので、ご覧下さい。



2015.6
No.30

第 30 号会報の発刊に際して

代表理事 猪股 宏(東北大学大学院工学研究科・教授)

NPO 法人環境会議所東北の平成 27 年総会は 5 月 15 日に開催し、平成 26 年度の活動総括と 27 年度の計画を議論頂きました。

基本は、昨年度から継続してきております、環境マネジメント認証機構「みちのく EMS」の運営です。地域版 ISO として 10 年経過して、その認知度もあがり、現在では 200 を超える事業所が参加しております。執行体制も奥脇代表が退任され副代表であった中田先生が代表に就任されました。また、新基準ともなる「ISO14001」も本年度に改訂されることになっており、まさに変革の年です。そのような中で感じているのは、CSR(企業の社会的責任)を唱えているだけで、本当に良いのか?です。これまでの認証企業は「企業活動で社会に与えた影響に対応した活動をする」という考えのもと環境対策やコンプライアンス(法令遵守)の実施といった CSR に取り組んできていますが、一方、企業としては当然「利潤追求」も必須です。この相反する 2 つを如何に日常の企業活動に反映させるか? 本当にできるのか?



最近、これに対して新しい概念「CSV」という話を聞きました。CSR から CSV へ... というこらしいのです。企業の競争戦略論で知られるハーバード大学のポーター教授などにより提案された新しいものが、CSV(Creating Shared Value: 共通価値の創造)と呼ばれるコンセプトです。彼らは、CSR 活動がマンネリ化するなどの行き詰まりが見られるのは当然の成り行きと考えています。ここでの CSV とは、善行的な社会貢献という従来の CSR が抱えた限界を踏まえた上で、社会的課題の解決と企業の競争力向上を同時に実現するという意味で、「事業戦略の視点で見た CSR」と言い換えることもできそうです。では、CSV とは具体的にはどのような企業活動を指しているでしょう。CSV 実現への要素に「プロダクトと市場の見直し」があり、これは「社会的課題を解決する製品・サービスを開発・販売すること」という説明がなされています(ニッセイ基礎研、川村氏)。この手法による CSV の成功事例の一つがハイブリット車の開発であり、このケースでは、環境負荷の少ない自動車を作るという社会的課題の解決が、新しい市場の創出に直結しているわけです。

では、すぐに実践... とは行かないと思いますが、環境マネジメント=CSR=善行・ボランティアという等式だけでなく、上述のような考えを掛け算として導入して、CSV→企業発展にもなると考え、前向きに進みたいものです。

本当に勝手な思いを書きましたが、この趣旨を拝察頂きまして、今後とも御理解と御協力をお願いする次第です。

●第 18 期総会開催

第 18 期平成 27 年度通常総会は、平成 27 年 5 月 15 日(金)に仙台エーラクビル個室居酒屋 亜門を会場に開催いたしました。猪股宏代表理事の挨拶の後、直ちに議事に入り、第 1 号議案 平成 26 年度事業報告ならびに決算報告、第 2 号議案 平成 27 年度事業計画ならびに予算案はすべて承認されました。記念講演は、経済産業省東北経済局産業部経営支援課長 藤本隆氏に「中小企業・小規模事業者への支援策」と題して講演をいただきました。— 近年の日本経済は、人口減少・高齢化という構造変化となり、本格的な人口減少社会になるため、いかに中小企業・小規模事業者が生き残っていけるか、中長期的な観点から考えていく必要がある。地域活性化と小規模事業者振興は表裏一体。市区町村や大企業、農家・観光協会等、NPO との連携を進め、地域の小規模事業者を支援する。よろず支援拠点 小規模事業者支援法の改正の概要は、商工会・商工会議所による伴走型支援であり、新たに経営戦略に踏み込んだ支援を実施するというもの— 他にもものづくり・商業・サービス革新事業、創業・第二創業促進補助金、支援ポータルサイト ミラサボの紹介がありました。



総会の様子



記念講演の様子

続いて懇親会に入り、出席者から当会との関わりや自社の紹介をしていただきました。会員の方々は、会員同士、顧問の先生方と親交を深めているようで、大変盛り上がった懇親会となりました。

「いのち支える自然の力！さかなクンと学ぼう」開催報告 於：夢メッセみやぎ西館展示場

平成 26 年 11 月 22 日 (土) (午前 9 時 30 分～午後 5 時 来場者数 約 2,000 人) 夢メッセみやぎ西館展示場において、「山・里・海のつながりから地球の未来を考える『いのち支える自然の力！さかなクンと学ぼう』～見て、聞いて、触れて、食べる！楽しい一日」を開催いたしました。ステージにおいて、環境省主催「東北地方 ESD プログラム『チャレンジプロジェクト 2014』発表大会」、ユネスコスクール民俗芸能発表会、宮城県環境日記発表会、第 14 回環境甲子園などを開催。本イベントのメインである東京海洋大学客員准教授の「さかなクン」を講師に招き、南三陸の復興と宮城県に由来のある魚についてトークショーが行われ、子どもから大人まで大変好評でした。また、「官民と企業の共生エリア」、「ESD・RCE ユネスコスクールエリア」、「山郷海の生物多様性エリア」、「持続可能な農林水産エリア」の各エリアにおいて、企業、NPO、自治体など (31 団体、28 小間) がそれぞれの環境に対する活動の紹介やワークショップを展開。食文化ブースでは宮城の上手いものを販売。出展者からも出展してよかったとの声をいただき、大変充実した環境イベントでした。



会員 企業紹介
大越工業株式会社
代表取締役 大越 幸男 氏
〒962-0041 福島県須賀川市横山140番地
TEL: 0248-76-2155 (代表) FAX: 0248-76-3366
従業員数 21 名 創立/1948 年
資本金/3,000 万円 URL: http://www.okoshi-recycle.co.jp

会員 企業紹介
株式会社東洋環境開発
代表取締役 林 昭兵 氏
〒983-0003 宮城県仙台市青葉区小田原 6 丁目 7 番 1 号
TEL: 022-265-7632 FAX: 022-716-6667
従業員数/50 名 創立/2001 年 資本金: 2,000 万円
URL: http://www.e-tokan.com/

自動車全部再資源リサイクル全国トップ 10

大越工業株式会社は、リサイクル事業を行っています。使用済となった自動車や機械設備、工業製品仕掛端材など現物を買受け、高度金属リサイクル処理を施して、再び製鋼原料用素材 鉄、非鉄、希少金属へと還元するリサイクルプロセスを担っています。私たちに、貴重な資源である金属スクラップ材を無駄なく、有用な循環型資源原料として国内市場へと還元しています。



東洋環境開発ゼロ・エミッションを目指して

東洋環境開発は、主に建造物解体工事・産業廃棄物の処理、再生を事業としています。「夢のある新しい街づくり」が、東洋環境開発の企業理念です。解体によっていったん土地を更地に戻す。そこから新しい夢のある街を創造するための基礎を用意するという意味合いです。夢を生み出す場所ですから、その工事が迷惑なものであってはならないわけです。



平成 12 年「建設リサイクル法」の制定により、建築物の解体時に発生する廃棄物について再利用が義務づけられました。資源を最大限に生かす解体工事の実現に向けて努力を続けてきましたが、解体工事のあり方やその廃棄物の処理の仕方、技術の向上のためには、自社でリサイクルセンターを運営することが適切だと考えました。その結果、平成 15 年 6 月 仙北営業所・東環リサイクルセンターを大和町鶴巣に建設することができました。解体工事が出た資源をしっかりと生まれ変わらせ、再び社会に送り出す。このような資源を最大限に活かすため、リサイクルセンターを自社で運営し、資源の再生まで行うことは当然の帰結でもありました。

当社が目指すものは「ゼロ・エミッション Zero Emission」です。全く廃棄物を出さないリサイクルという産業思想で、自然を壊さない、次世代に受け継いでいきたいと考え、「宮城県産業廃棄物の適正処理推進に関する協定」を結び、循環型社会の実現に取り組んでおります。さらに、平成 21 年 3 月に ISO14001 を認証取得し、平成 25 年 2 月には、ISO14001 認証全社統合をしました。

地域の清掃活動では、宮城県が管理する道路の美化活動を行う企業、団体「スマイルサポーター」として、当社もリサイクルセンター周辺の道路清掃を行っています。さらに、仙台市の「まち美化サポーター」として認定され、市が管理する道路や公園などの清掃や除草等の活動を行っています。また、リサイクルセンターがある地域との共生を何より大切と考え、大和町鶴巣山田地区の皆様との交流を大事にしています。

解体工事から資源の再生までトータルに関わり、これからの循環型社会に幅広く貢献していくことを目指しています。



大和町鶴巣の東環リサイクルセンター

第 15 回環境甲子園募集開始！

環境甲子園は環境と共生した社会の実現を目指し、エネルギー問題やゴミ問題など様々なテーマで高校生や環境に関する取組みを募集するコンテストです。

- 応募資格 ①東北 6 県の高等学校生・高等専門学校生 ②個人・グループ、いずれも可
■賞および賞金 最優秀賞 1 点 10 万円
優秀賞 2 点 5 万円
特別奨励賞 5 点 3 万円
奨励賞 6 点 1 万円
■エントリー期間 2015 年 4 月 20 日 (月) ~ 7 月 20 日 (月)
作品 (成果品) 応募期間 2015 年 6 月 20 日 (土) ~ 8 月 31 日 (月) ※当日消印有効
■入賞発表 ホームページに公開 (10 月上旬頃を予定)
■表彰式 2015 年 11 月頃を予定

平成 27 年度小型家電リサイクル啓発事業 「親子リサイクル体験教室 in 仙台高専」

- ～使わなくなったパソコンから金を取り出そう！～
■日時: 2015 年 8 月 4 日 (火) 12:30~16:00
■会場: (独) 国立高等専門学校機構仙台高等専門学校名取キャンパス
■集合場所: 仙台合同庁舎 (仙台市青葉区本町 3-3-1) ※バスで送迎します
■主催: 経済産業省東北経済産業局
■共催: 仙台市、仙台高等専門学校 ■協力: 榊青南商事
■募集: 仙台市内在住の親子 (小学生 4~6 年生) 15~20 組
■入場料: 無料
■参加申込: 参加者氏名、年齢、住所、TEL・FAX をご記入の上、ハガキまたは FAX でお送りください (締切 7/15 必着) ※応募者多数の場合は抽選を行います
■申込み・問合せ先: NPO 法人環境会議所東北まで

コラム

メタン発酵から豆腐製造へ—原発被災地の復興をめざして

東北大学名誉教授 野池達也



筆者はライフワークのメタン発酵によって、何とかして原発被災地復興のお役に立つべく、2012 年以来、福島県伊達市霊山町下小国地区における NPO 再生可能エネルギー推進協会 (REPA) のメタン発酵実験に参画しております。福島第 1 原発から直線距離で 55km、計画的避難地域以外では最も放射線量の高い地域であり、農業はほとんど行われなくなり、祖先から継承されてきた大切な田畑は荒野と化し、現地の方々のお苦しみは測り知れません。本実証実験の目的は、放射能で汚染された生ごみや果実、雑草等のメタン発酵によりバイオガスを生産し、発酵残渣中の放射性物質濃度を測定し、メタン発酵の放射能濃縮機能を立証することです。すべて手造りの実験装置を用いて、現地の大沼豊代表により、期待された成果が着実に上げられております。さらに、ドイツのように、資源作物のデントコーンを栽培し、バイオガス生産に鋭意取り組んでおります。何よりも大きな恩恵は、あれほどの打撃を受けられた現地の方々が、農地の除染後、大豆を栽培し豆腐製造に立ち上がったことでもあります。そして、メタン発酵により放射性物質で汚染されたバイオマスから、有価物のバイオガスを生産できる感動と喜びを体験されたことによります。仙台からは筆者と共に、太子食品工業 (株) 監査役小谷津洋康氏が、40 年に亘る豆腐製造のライフワークによって REPA の同志に加わって下さいました。本年度は、写真に示されたメタン発酵装置の隣に豆腐製造装置を設置し、小谷津氏のお力添えにより、昨年収穫された大豆によるブランド豆腐製造実験が始まります。メタン発酵から豆腐製造へと、霊山の復興はこれから着実に進められて行くように思われます。



メタン発酵実験装置

そのような情勢の中、線接応力と法接応力を用いた流動応力分離選別回収技術に対し、2011 年度環境省: 先進的金属リサイクル技術開発事業の委託を受け装置の開発に成功しました。複合素材化が進む金属資源スクラップ材をそれぞれの組成相違が生み出す歪みを利用して自己展開破壊させる技術で、いままで分離素材原料化ができなかった希少金属類を取り出し、国内大手企業各社へ供給しています。さまざまな金属複合素材のサンプル製品が日本中から持ち込まれ、日々壊す・分離する・選別する・回収する・国内還元する金属リサイクルに取り組んでいます。
当社は、2003 年環境マネジメントシステム ISO14001 認証取得をしました。当時、鉄スクラップ業界において産業廃棄物処分業や収集運搬業の許可が必要になったことや、社会的に不法投棄の問題がクローズアップされた背景もあり、社会から信頼される企業になりたいと考えマネジメントシステムに取り組みました。社員教育や内部監査の体制を整えたことで、一人一人の業務の範囲が広がり、全員がローテーションに入ることが可能になりました。また、現在 21 名の社員数ですが、一人当たりの生産性は業界トップクラスです。第二工場では自動車リサイクルを手掛けていますが、ゴミ化しない使用済自動車に対する「全部再資源リサイクル」を達成し、コンソーシアムを組む国内外自動車メーカー各社より、その実績が評価されて 10 年連続で全国トップ 10 に入賞しています。単なるリサイクルにはとどまらず、使用済製品の性状・組成の研究からオリジナル設備の開発まで、リサイクル技術の研究開発をベースに限りない再資源化率の向上にこれからも挑戦していきます。

